

江古田小校長室便り 「温故創新」

H29 (2017)・0825 NO25

校長 伊波喜一

脇役に 徹する人が いればこそ 晴れの舞台を 支え合わなん

青山学院大学陸上部は、創部97年目の2015年に箱根駅伝総合で初優勝し、3連覇中です。率いる原 晋（はらすすむ）監督の選手育成法は「互いの良さを認め合い、高め合う集団づくり」です。原監督は社会人選手として活躍していましたが、5年後に故障のため引退します。正直、未練があったといいます。しかし、その時の体験から「出来る出来ないではなく、一生懸命やる」、「いつ引退しても、心残りがないような形のものをつくる」を、学生達に訴えてきました。また、指導目標として一体感や心理的安定性など、何でも言えて相談できる人間関係を重視しています。「人は機械ではないので、何回も失敗する」ということを前提に先ず諭し、指導へとつなげていきます。人は幾つになっても、判断に迷う生きものです。その時に話をじっくり聞いてもらい、改善策を示唆されたらどうでしょう。不安が去り、希望の灯が心にともることでしょう。切磋琢磨する選手集団は、一朝にしては成りません。一対一の聴き役に監督自らが徹したからこそ、今、大輪の花が咲いているのです。